

会 議 録

- 1 会 議 名 木更津市立公民館運営審議会第4回定例会
- 2 開催日時 平成27年3月25日(水) 午後3時～5時
- 3 開催場所 木更津市立中央公民館 1階大ホール
- 4 出席者氏名 **【公民館運営審議会委員】** 16名
若鍋 知幸 石井 京子 元木 栄 澤邊 賢司
影山 匡子 松尾 玲子 森田 美保子 瓜田 栄一
本多 二三代 青木 健 金子 邦夫 菅原 興二
村上 淑子 古藤田 憲之 山田 治子 鶴岡 俊之
- 【公民館長】** 15名
渡邊 雅夫 (中央公民館) 伊藤 勉 (八幡台公民館)
高橋 栄二 (富来田公民館) 原 敏美 (清見台公民館)
江野澤 和彦 (岩根公民館) 山口 玲子 (畑沢公民館)
石塚 幸一 (鎌足公民館) 山中 裕 (岩根西公民館)
小原 俊郎 (金田公民館) 本多 豊 (西清川公民館)
小川 惠市 (中郷公民館) 根本 弘 (波岡公民館)
加藤 芳生 (富岡公民館) 林 正巳 (桜井公民館)
室前 惠子 (文京公民館)
- 【事務局職員】** 4名
星野 隆弘 (中央公民館副館長)
齋藤 礼司郎 (中央公民館主査)
栗本 優 (中央公民館主事)
稲村 員代 (中央公民館社会教育指導員)
- 5 議 題 議案第1号 平成26年度公民館事業実施結果について
(1) 平成26年度公民館重点目標・施策に対する取り組み結果
(2) “公民館の魅力再発見” シンポジウムの実施結果
(3) 各公民館の事業報告、重点目標に対する取り組み・成果と課題

報告事項

- (1) 各種選出委員からの活動報告
- (2) 平成27年度地域自治の充実に向けた制度推進事業について
- (3) (仮称) 金田地域交流センター整備方針について
- (4) その他

6 公開又は非公開の別 公開

7 傍聴人の数 0人

8 会議概要 以下のとおり

事務局より、委員の出席状況について、定数20名に対し過半数である16名の出席があり、木更津市立公民館運営審議会運営規則第6条の規定に従い会議が成立した旨報告された。

山田委員長の挨拶に続いて、委員長が議長を務め審議に入った。

議案第1号「平成26年度公民館事業実施結果について」

最初に、渡邊中央公民館長より、平成26年度公民館重点目標・施策の取り組み結果について、続いて原清見台公民館長より、“公民館の魅力再発見”シンポジウムの実施結果について、報告がなされた。その後各公民館長より、平成26年度重点目標に対する取り組みの成果と課題について、中央公民館から順次3回に分けて報告がなされ、質疑応答が行われた。

●平成26年度公民館重点目標・施策の取り組み結果について

渡邊館長： 公民館の重点目標・施策の取り組みについては、5つの重点施策を掲げて取り組んだ。

1点目の高度で多様化する市民の学習要求や現代的課題に対応した事業の展開については、市民の学習要求に応えるために各種学級講座を実施するとともに、安心して暮らせる地域づくりをめざし、現代的課題や地域課題に関する事業を実施してきた。特に、昨年度より「健康」を共通課題として取り上げ、本年度も全公民館で「健康」に関する講座を行った。

2点目の家庭教育に関する学習機会の提供では、全ての公民館で、乳幼児を抱える親を対象にした子育て支援事業や児童期から思春期の親を対象にした家庭教育学級を実施するなど、地域の教育機関などとの連携のもと、家庭教育事

業の充実に努めた。

3点目の地域ぐるみの青少年教育事業の展開については、全公民館が「サタデースクール事業」に取り組み、小中学生を主とした地域の子どもたちに、普段家庭や学校では経験できないような体験学習、遊びや交流等の機会を提供した。

また、地区住民会議主催による「生き生き子ども地域活動促進事業」を通じて、通学合宿をはじめ、各地域の創意工夫による様々な事業を実施した。実施にあたっては、地域の大人（制度ボランティア）や公民館利用者（サークル等）、アフタースクールボランティア、ユースボランティアなど、多くのボランティアの協力、支援を得ることで、世代間の交流と地域の絆を深め合う機会とした。

現在、青年対象の事業は行なわれていないが、ユースボランティアの若者たちが、サタデースクール事業等を通して子どもたちと深く関わるなど、小中学生対象の事業に積極的に参画した。

4点目の高齢者の学習機会の提供と社会参加の促進については、生きがいと健康づくりを目的に、全ての公民館で高齢者教室を開催した。教室への参加をきっかけに、自身の持つ知識や経験を地域に活かせる場面が増え、高齢者の社会参加と地域の子や孫世代との交流を促進することができた。

5点目の市民とともに歩む公民館活動の推進では、公民館運営審議会を年4回開催し、民意を反映した公民館運営を図るべく努めるとともに、事業の企画にあたっては、住民の意見を反映させるために企画準備会を設けたり、地区文化祭では、地域の実行委員会が主体となって取り組んだ。

また、地区住民会議では、地域の関係機関・諸団体が課題を共有し合い、環境浄化活動や環境美化活動など、青少年の健全育成に向けた各種活動を行った。

加えて、岩根西・富来田・西清川の3地区では、新たな地域自治の推進に向けた取り組みを地域主導で実施し、企画部企画課と連携しながら、公民館がまちづくり協議会の運営等に対し支援を行った。

中央公民館が開館50周年記念事業、畑沢公民館が開館30周年記念事業に取り組み、記念式典や記念文化祭などを開催し、記念誌を発行した。関係者の皆様にあらためて御礼を申し上げたい。

● “公民館の魅力再発見” シンポジウムの実施結果について

原 館長： 今まで行っていた公民館のつどいを総括し、今後の公民館のあり方を模索していくためのシンポジウムを3月14日に開催した。

当日は約200名の参加があり、宇都宮大学准教授佐々木英和氏による基調講演の後、3名の市民によるパネルディスカッションを行った。

基調講演は、承り型の講義ではなく、ワークショップ方式で行い、参加者にも好評だった。つづくパネルディスカッションでは、前公運審委員長の篠田芳夫氏による「変わりゆく街と公民館のつながり」、地域子育てセンターゆりかもめの保育士、白石恵美子氏による「公民館と連携する子育て支援活動」、ユースボランティアの菅浩亮氏及び生涯学習課職員の北原涼氏による「若い世代が支える公民館活動」の3本の提案が行われた。会場からも多くの意見が飛び交い、あらためて公民館の現状と課題、これからの可能性を考えさせる有益なシンポジウムとなった。

今後は、市民の企画段階からの参画も検討しながら、全体事業に関する委員会での総括を踏まえて、次年度以降に繋げていきたい。

●各公民館からの報告（1回目）：中央・富来田・岩根・鎌足・金田公民館長より

渡邊館長： 重点目標①の青少年教育事業の充実については、中央キッズクラブ26をはじめ、8事業を実施した。夏休み宿泊体験やわがまちたんけんぼんぼこラリーは、町内会、各種団体、公民館サークル、ユースボランティア、保護者など多くのボランティアの協力と支援を得ながら取り組むことができた。特に、地域の青少年相談員との関係を深められたことは、次年度に繋げていく上でも大きな成果であった。課題としては、西清小学区の子童の参加や中学生の参加と活用を、今以上に増やすための方策を検討していくことが挙げられる。

重点目標②の地域の子育て支援や家庭の教育力の向上については、乳幼児期の親と小中学生の親対象の2つの家庭教育学級を実施した。継続参加者を中心に自主的な運営がなされてはいるが、働く母親の増化に伴い、継続的な学習を維持していくことが難しくなっており、日程や方法についての工夫が求められている。

重点目標③の地域の様々なニーズや生活課題に関する学習については、健康をテーマにした事業など5事業を実施した。事業終了後に毎回アンケートをとるなど常にふりかえりを行ない、受講者の反応や意見を把握しながら、きめの細かい運営に努めることができた。今後も、市民のニーズを取り入れながら、より参加しやすい事業を心がけていきたい。

重点目標④のサークル及び地域団体相互の連携・交流と新たな人材発掘、利用者層の拡充については、7事業を実施した。中央公民館まつりでは、今年度も中学生ボランティアが参加するなど地域のつながりづくりの一助となった。

重点目標⑤の中央公民館開館50周年記念事業の取り組みでは、区長会、地域諸団体、利用サークルを中心とした実行委員会が主体となり、記念式典、祝賀会、記念イベントを実施したほか、記念誌を発行した。乏しい予算の中で、

地域の区長会や事業所の全面的な支援を頂き、盛会裏に実施することができた。

高橋館長： 重点目標①については、4事業開催し、地域の特性を生かした内容とした。
重点目標②については、公民館活動のPRを積極的に推進し、健康づくり、生きがいづくり、仲間づくりを図り、子育て支援事業では、地域の児童施設の協力を得て母親の居場所作りに貢献できた。
重点目標③については、公民館を中心とした地域自治の充実に向けて、まちづくり協議会設立のための準備を進めている。
重点目標④の美術鑑賞教室は、開催時期にある美術館情報や解説等の資料収集を行い、より美術に対する知識を深めるようにした。当日は、美術館職員等の解説付きで鑑賞した。文化鑑賞会は、地域から資金を得て開催した。
文化活動は、一朝一夕にはできないが、今後も地道な努力をしていきたい。

江野澤館長： 重点目標①については、「岩根市民講座」を開設し、防災をテーマに避難所を想定したロープワークや簡易テント作りなどの模擬体験を行った。
重点目標③では、ミッドナイトウォークに270人が参加し、地域の一大行事として定着している。全般的に事業は順調で、一定の成果を得ているが、今後も地域の方々の声を第一に考え、公民館の運営を進めてまいりたい。

石塚館長： 重点目標①については、「男美食倶楽部」、「野山歩き隊」、「鎌足桜学級」を実施し、地域の方々と交流ができた。「鎌足むかし発見講座」では、鎌足の資料を参考に鎌足の歴史再発見ができ、地域の良さを感じることができた。
重点目標②については、文化祭を通じて地域の団体やサークル等の発表と交流の場を提供できた。
重点目標③では、「どんぐり山の親子くらぶ」「やまびこ学級」で、母親同士の交流と仲間作りの機会となった。「親子チャレンジ教室」では、凧上げ大会や各種工作を行い、親子のふれあいができた。ほたる鑑賞会は中止となったが、小学生による「花いっぱい運動」で、公民館玄関付近に花を植えた。環境に対する意識が育ってきている。

小原館長： 重点目標①についての特色ある事業としては、「健康づくり講座」があり、金田小学校児童とともに健康について学習した。
重点目標③の「なかよしクラブ」では、参加者が自発的に活動を計画、実践し、充実した活動となっている。「浜っ子なかよしクラブ」では、参加者が少ないため、岩根西公民館と一緒に活動している。
重点目標④では、バスハイクを楽しみながら参加者同士の交流を深め、様々

な体験が個々の活動に生かされている。

●質疑応答

古藤田委員： 富来田公民館で行われている美術鑑賞教室はいつごろから実施しているのか、芸術鑑賞会の主な内容はどのようなものか教えてほしい。

高橋館長： 3年前から実施している。今年度は、町田市立国際版画美術館、新国立美術館でのオルセー美術館展と改組された新第1回日展、ルーブル美術館展、横浜美術館でのホイッスラー展の計5回の鑑賞会を実施した。詳細な資料提供や博物館職員の解説を依頼するなど、優れた芸術文化に触れる機会を提供している。また、芸術鑑賞会では、ハーモニカの演奏会を行い、叙情歌や演歌の鑑賞を行った。

●各公民館からの報告（2回目）：中郷・富岡・文京・八幡台公民館長及び、事務局より

小川館長： 青少年事業の充実を目指して意欲的に事業を行い、地域の方と子ども達との交流に努め、公民館活動の様々な場で学校問題が話し合われ、幅広い年齢層の中で話し合いを進め、地域の公民館としての位置づけを確認した。

利用回数は810回で平成24年度より69回増え、利用者数は8664人、昨年度より7人減少となった。利用状況を見ると5人から10人程度の利用サークル・団体がほとんどとなっている。ただ、卓球サークルの利用は増えており、新しい公民館利用者の開拓を意識したテーマの設定やPRで、新しい参加者を得ることができた。地道な実践を重ねて参加者を広げていきたい。

加藤館長： 富岡地区は、400世帯、住民1600人。富岡小学校の児童数の減少は著しく、今年度8名卒業、新1年生は1名入学という状況である。

公民館利用者は高齢者が多く、青少年層を増やしたいが苦戦している。

重点目標①については、気持ちよく利用してもらうために、花を絶やさないようにしている。

重点目標②の富岡小オープンスクールに、サークルが授業の講師として参加している。重点目標③④⑤については、富来田公民館とタイアップし、共催・共同・補助という形で事業を行っている。

室前館長： 昨年度の課題から3点に絞って報告します。サタデースクール事業として、

親子サバイバル塾を開催し、親子で生きる力を育み、親子の絆を深めることを目的に5回の学習を行った。非日常的な体験をすることで経験値が上がり、成長の糧となる行動が見られた。

家庭教育学級では、情報交換だけでなく、自分自身の時間を持つことの大切さから、学級開催の重要性を痛感している。ただ、真舟小学校の設立により学級生の減少が目立ち、小学校単位での開催は難しくなっているため、2校合同の開催を検討中である。また、開催にあたっては、働く親も多いので、開催回数、内容、日等の工夫が必要と考えている。

重点目標③の健康づくり講座では、若年層の参加に向けて「保育あり」をアピールして2・3歳の子どもを持つ母親などの参加を促し、幅広い年齢層の参加を得られた。

伊藤館長： 八幡台地区は、少子高齢化の八幡台と若い世代中心の羽鳥野地区に分かれているので、住民同士が支え合う事業と子育て支援事業を重点に実施した。

子育て支援事業として乳幼児学級を立ち上げたが、母親のパート勤務等の関係で60%の参加率が現状であり、運営面で苦戦している。

重点目標②「八幡台小ひばりチャレンジ広場」では、講師がすべて地元の方で運営され、延べ1252人の参加者があった。今年度は、学校の行事や工事で大幅に削減される予定であり、残念である。

重点目標③ワンデーハイキングは、生活習慣病の改善になると好評である。

重点目標④では、市民力の向上を目指して、八幡台小学校地区防災協議会を中心に避難場所に関する覚え書きを作成し、生活ルールの検討等を行った。

東清公民館は、泉水館長が主催事業により欠席のため、事務局が代わりに報告した。

事務局： 平成26年度については、サタデースクール事業をはじめ、21の事業を実施した。サタデースクールは、夏・冬・春休み期間中に、9つの教室を開催し、その他の講座（教室）では、「小中学生のママ講座」など11事業に取り組んだ。

新しい事業としては、利用者の拡大をめざし、住民の生き甲斐となる趣味を開拓するための「ブリザーブドフラワー体験教室」を行った。

また、昨年度実施した健康講座の有志で健康サークルを発足させ、このサークルと合同で「はつらつ健康講座」を毎月開催した。毎回盛況であり、住民の健康に対する関心の高さが伺える。

その他、子育てが一段落した40代から50代前半の女性を対象とした、「すだち女性セミナー」では、受講生の希望を取り入れながら、新しい試み

を行うなど、いずれの事業も盛況であった。

新しい取り組みとは裏腹に、参加者の年齢が年々上昇してきていることは事実であり、今後も工夫を重ね、少しでも若い世代の利用が増える方法を模索していきたい。

●質疑応答

古藤田委員： 八幡台地区の防災協議会の取り組みについて報告があったが、災害が発生した場合には、公民館と小学校のどちらが避難所になるのか。

伊藤館長： 小規模な災害の場合は、公民館が避難所を開設し、大規模災害や被害が拡大する場合は、公民館と小学校の両方に避難所を開設することになる。公民館には、主にお年寄りや体の不自由な方に避難していただき、災害の規模や避難者の状況に応じて、避難所運営にあたることになっている。

古藤田委員： 防災協議会では、小学校とどのように連携しているのか。

伊藤館長： 今申し上げたように、公民館も小学校も、災害発生時には地域が一体となって連携しあい避難所運営にあたることを、会の目的として確認している。

●各公民館からの報告（3回目）：清見台・畑沢・岩根西・西清川・波岡・桜井公民館長より

原 館長： 重点目標①の「たんぼぼ家庭教育学級」では、学級生による自主的な企画運営が進められ、学習内容の高まりが見られた。乳幼児学級では、子育てについての学習や季節に合わせた創作活動を通して、子育てに関する悩みや不安を軽減させることができた。

重点目標②の青少年事業では、子どもの希望を把握できにくいので、子どもを交えて組織構成し、子どもの興味のあるものを探りながら内容を吟味し、自主的な活動となるようにしたいと考えている。通学合宿では、地元のボランティア、木更津高専の学生が活動の中心となり、子どもとの交流を深めている。

重点目標③の文化祭や音楽祭の開催には、併設の体育館を使用しているが、子どもの縄跳び大会等にも積極的に関わっていきたいと考えている。

重点目標④では、新たな利用者獲得のために、地元の商店の方々を講師に迎えた事業を開催するなど、より地元に着した事業の充実を検討中である。

山口館長： 重点目標①の「ぴよぴよ親子学級」は、学級生による積極的な学級運営がなされ、充実した活動となっている。

重点目標②では、新規の参加者を獲得するために料理教室、野山歩きを開催し、幅広い参加者を得ることができた。

重点目標③については、なるべく地元の方を講師やボランティア、アシスタントとして活用し、親以外の大人との関わりをもたせてきた。参加者の自主性を育てていくことが課題である。

重点目標④の健康づくり講座では、免疫サロンが人気で、座学に加えストレッチや調理実習も行い、健康に対する意識を高めることができた。

最後に、開館30周年記念事業に取り組む中で、公民館の意義やねらいを再確認できた。

山中館長： 人と人が心を通わせ、協調性を持って生活していくための大切な4点は、挨拶ができること、時間を守ること、言い訳をしないこと、感謝の気持ちを相手に伝えることである。これらは、通学合宿で体得できることであり、社会的自立、社会適応力、生き抜く力を育む機会として、継続的な運営への参加を確保していくことが課題となっている。

まちづくりフォーラムでは、「もしもの時、あなたは大切な人を守れますか」と題して、日頃からの備えの大切さを学ぶために、3月8日に岩根小で岩根西地区避難訓練を行った。参加者は310名（内スタッフ79名）で、津波を想定して行うなど、防災に対する意識を高めることができ、まちづくりの一環としての訓練になった。

共働き家庭の増加に伴い、家庭教育学級の開催が困難な状況にあるので、今後は、複数館が協力して事業を行うことも必要ではないかと思う。

本多館長： 重点目標①については、約30名の父母が様々な考えを持ち寄って交流を行った。運営に対する自主的な関わりを促すことや、学級生を増やす工夫を検討していきたい。

重点目標②では、地域の大人との交流を大切にしながら、学校では体験できない古き良き文化を伝承していきたいと考えている。

重点目標③の高齢者学級の出席率は、昨年より7%アップの64%、健康に関する講座は、67%の出席率でした。各講座に多くの方が参加し交流が広がったことが大きな成果と言える。今後は、出席率を65%台に上げるとともに、運営に自主的な関わりを持たせていけるようにしたい。

重点目標④の文化祭については、地域住民との連携を密に取りながら円滑な運営が行われ、各団体・サークルに発表の場・交流の場として充実した開

催ができた。今後は、さらに現在不参加の団体・サークルにも参加を呼びかけ、交流の輪を広げていきたい。

重点目標⑤では、健康寿命講座の受講者にとって、健康増進や家族の食生活を見直す機会を提供できた。西清川まちづくり協議会では、月1回の防犯パトロールを8月より試行し、地域住民の横のつながりができた。今後は、西清川まちづくり協議会を地域住民にさらに周知していくつもりである。

根本館長： 様々な事業で、学びの喜びでいきいきとしている利用者の姿を目にすることができたことが大きな成果であった。今後、学びの成果をどのように地域に広げていくが課題である。特にまちの活性化の指標は、まつりの開催の有無ではないかと考えている。高齢化のため、まつりの期間を検討しているところだが、地域の活動を見ながら公民館のあり方を考えていきたい。

林館長： 重点目標①の「思春期家庭教育学級」は、学級生の自主的・積極的な運営で素晴らしい成果を上げている。「気になる子どもをもつ親のための講座」は大盛況であり、来年度も実施の予定である。

重点目標②のサタデースクール事業については、限られた予算であるが、公民館でしかできないような事業展開を模索していくつもりである。

重点目標③の高齢者「桜井あしたば学級」については、参加者のニーズを取り込みながら、話し合いを充実させて一緒に創る学級運営を目指していきたい。

重点目標④では、連協活動でサークル相互の連携を図ることができた。今後は、サークル活動の意義も含めたサークル連協のあり方について、利用者とともに考える機会をつくりたいと考えている。

●質疑応答 特になし

以上で、各公民館からの事業報告と質疑応答は終了し、議案第1号は承認された。

報告事項

予定を変更し、最初に石井生涯学習課長より、「(仮称)金田地域交流センターの整備方針」について、報告がなされた。

石井課長： (仮称)金田地域交流センターの整備に関する経緯については、資料記載のとおりである。金田東地区に既に購入済の約6000㎡

の区画内に、地域再整備総合交付金を活用して、新基本計画の期間内に、新たに行政センター的な機能も有した、金田公民館の移築、新設を行っていく方針である。生涯学習や地域づくりの拠点としての公民館機能だけではなく、多様な住民サービスに対応できる複合施設とするため、名称も仮称だが、金田地域交流センターとしている。3月20日の市議会で、建設に向けた新年度当初予算が議決されたところであり、27年度以降は、所管が教育部から市民部に移ることになるが、金田地域交流センターになっても、教育機関としての金田公民館は、そのまま位置づけていくことになっている。

今期最後の定例会として、初谷教育長が到着されたため、予定を繰り上げてご挨拶を戴いた。教育長が退席された後、報告事項に戻り、順次報告を行った。

●各種選出委員からの活動経過について

- ・生涯学習推進協議会（松尾委員より）

3月26日に第2回目の会議が開催されることになっており、特に報告することはありません。

- ・社会教育委員会議（青木委員退席のため金子委員より）

第2回から第4回までの定例会について報告がなされた。

第3回では、平成27年度から始まる木更津市基本計画や木更津市教育振興基本計画の概要と進捗状況について説明があった。第4回では、平成27年度の社会教育に関係する教育振興事業補助金について、必要とみなす答申をしたこと、県教委の説明では、働く親の支援と放課後の子ども対策として、文科省が取り組む放課後子ども教室及び、厚労省が取り組む放課後児童クラブによる放課後子どもプランについて、国では今後、連携・一体型の運営を推進し、小1のカベの克服に力を入れていく方針であることなどの説明があった。

- ・図書館協議会（佐藤委員欠席のため山田委員長より）

3月13日に開催された第2回定例会の内容について報告がなされた。

平成26年度の活動報告では、1年間の利用状況をはじめ、図書館が主催した各種事業の実績について、また、平成27年度の事業計画については、新年度からスタートする木更津市教育振興基本計画に基づいて、教育機関としての図書館や公民館図書室の機能の充実、市民の読書環境の整備に向けて取り組んでいきたい旨の説明があった。

・君津地方公民館運営審議会委員連絡協議会（山田委員長より）

1月23日に君公運審連全体研修会が、「公民館の評価と公運審の役割」をテーマに、千葉大学の長澤誠次氏を講師に招き、君津市生涯学習交流センターで、また、2月10日に「公民館の事業評価」をテーマに、君公運審連と君公連との合同研修会が、木更津市の中央公民館で開催されたことや、平成27年度の総会準備に向けた役員会が開かれることなどが報告された。

●平成27年度の「地域自治の充実に向けた制度づくり」の取り組みについて

事務局より経過報告とモデル地区での取り組みについて、また、平成27年度の取り組み方針（予定）について報告がなされた。

担当課である企画部企画課によれば、平成24年度以降、取り組んできたモデル地区（岩根西、富来田、西清川）の活動状況を踏まえ、平成27年度からは、新たに3地区を増やし、正式に中学校区単位6地区でまちづくり協議会を立ち上げ、取り組みたい方針である。予算は1地区あたり55万円が確定しており、新年度に開催される市政協力委員会議で説明を行い、モデル地区を含む全地区の希望を踏まえて、実施する地区を選定していきたいとのことである。

●その他

中央公民館長より、今期で退任される委員について、及び今年度で退職される公民館長について報告がなされた。

退任される委員、及び退職される公民館長より一言ずつ挨拶をいただいた。

最後に事務局より次期委員の委嘱状公布や新年度第1回定例会の予定について、例年通り5月中旬ごろに開催したい旨の連絡が行われた。

報告事項に関する質問等は特になく、予定された全ての議事を終了し、第4回定例会を閉会した。

平成27年3月31日

議事録署名人 木更津市立公民館運営審議会委員長 山田 治子